

組織を強くする 「リスクリング」

リスクリングで新たな領域に挑戦



ベンダ工業株式会社
総務部次長 松浦 和美 氏



社会福祉法人正仁会
事務長 矢矧 秀樹 氏 介護主任 寺島 宏之 氏



対談動画公開中 →



広島県 人的資本経営促進課 Tel 082-513-3414

近年、注目を集める「リスクリング」。経営・人事戦略に基づき、組織が主導する形で従業員の学びを促して業務に活用することを指す。広島県は全国に先駆けて2022年度から、県内企業のリスクリング普及に取り組み、その一環で本年度は「リスクリング伴走コンサルティング事業」を実施。その参画企業の中から、自動車部品製造のベンダ工業（呉市）と介護の正仁会（安佐北区）の推進担当者にリスクリングに取り組んだ背景、推進担当者としての悩み、今後の展望などを聞いた。

「取り組みを始めた背景は。」

ベンダ工業・松浦（以下、松浦）
当社は自動車などのエンジン始動に使う金属製リング（リングギア）を製造する。変化の激しい経営環境に対応するために、中長期経営計画で10年後のあるべき姿を設定。約8割を占める既存事業の売り上げを5割とし、新たな未来商品、電動化商品を2.5倍に引き上げ、事業構造を転換する計画を掲げている。今と同じことをしているでは成し遂げられない。だからこそ、常に学び続けなければという危機感があつた。ちょうどその頃、広島県がリスクリングの普及に取り組んでおり、それに参画することとで本格的に取り組みを始めた。

正仁会・寺島（以下、寺島） 私は介護現場の社員として働いている。高齢者のお世話をする直接的ケア

にAIなど新技術を導入するのは簡単ではないが、それ以外の間接業務は改善の余地が大きい。学びを通して、そういった部分を効率化することで、提供サービスの質を高め、高齢者の皆さんと関わる時間を少しでも長くしたかった。

正仁会・矢矧（以下、矢矧） 当法人は経営陣が社員に対して、年齢や役職を問わず学び続けることが大事と伝え続けており、社内学習への抵抗感はそれほどなかった。具体的な取り組みは。

松浦 まず広島県の取り組みに賛同して「リスクリング推進宣言」を行ったほか、社員全員に国家資格のITパスポートの取得を呼び掛けた。本年度の伴走コンサルティング事業には経営企画、総務、購買、製造、技術開発の5人が参加した。また、デジタル人材育成

広島県リスクリング伴走コンサルティング事業概要

企業がデジタル技術の進展等に伴う社会環境の変化に対応できるよう、経営戦略の実行に必要な人材戦略等に沿ったリスクリングの実践に向けた伴走型支援を行う広島県の事業。今年度はインタビュー企業の2社を含む県内企業5社が参加。

事業の流れ

- 1 企業が求めるスキルと現有スキルのギャップの見える化
- 2 ギャップを埋めていくための学習計画の作成
- 3 eラーニング提供と伴走パートナーによる学習支援
- 4 学習効果の測定

「社員にやりがいを感じてもらうための制度や仕組みがありますか。」

松浦 資格取得支援制度がある。業務に必要な資格は会社取得費用を全額支給。自己啓発前提の業務関連のものも取得時に奨励金を出している。また社内報に資格取

に向けてノーコードのアプリ開発システムやRPA、生成AIなどを学び、業務改善につなげようとしている。付随的な点では、業務に必要な資格取得支援のほか、社内講師制度で社員が学び、それを教え合う環境づくりを進めている。まずは管理職が率先し、それから一般職に学びの輪を広げている。現在は10人程度が取り組む。当初は不安の声もあったが、始めると楽しくなっているようだ。

得者の紹介や取得時の苦労話などを載せ、全社でその頑張りを称える機運を高めている。

ITパスポートの取得促進の際には、「リスキリング・DX賞」という表彰制度を設け、合格者全員にAmazonギフトカードを贈った。

矢矧 当法人も取得した資格の種類によって報奨金を出し、それを人事考課で社内評価につなげる。通学費の補助や勤務しながら資格を取得できる社内環境も整える。

当法人はこういった人材育成に關する会社の求める目標と社員の目標を社員ごとに1枚のシートにまとめている。これは上司と社員が一緒に目標を達成することを目指し、日ごろの情報交換で今の立ち位置を確認。足りない点があれば、次はこうしようという助言し伴走する。やはりコミュニケーションが大切。試行錯誤しながら進めている。

― 取り組みの成果は。 ―

松浦 一例として、デジタル人材育成の一環で、いくつかの業務改善アプリを実際に作成した。紙だった備品の在庫・発注管理をデジタル化。在庫置き場に掲示した二次元コードをスマホで読み取ると、発注依頼やリアルタイムの在庫や納入状況を把握できる。こういった取り組みはまだ社内の一部だけだが、これから全社に広げようとしている。社員同士が分からないことを教え合い、情報交換が活発になっていくのも一つの成果だろう。

寺島 当初、矢矧事務長からリスキリングの話聞き、これは良いチャンスだと思った。学びを生かし、実際に業務改善を進めている。例えば、ホワイトボードで行っていたデザイナーズ利用者の管理をエクセルで一括管理できるように変更。これでかなり効率化できた。できることが増え、それを実際の業務改善につなげられるのはすごく楽しく充実感がある。

― 勤務時間中の勉強時間をどう確保していますか。 ―

松浦 基本的には就業時間内に勉強時間を取るように各上長にお願いしている。しかし正直なところ、人による。あらかじめ毎週の勉強時間を定める人もいるが、どうしても仕事の都合で業務時間外にやっている社員もいるのが現実だ。

寺島 上長とは、あらかじめリスキリングの時間を設定。当社は月に2日で計8時間と決めている。

矢矧 シフト制の介護現場で別途勉強の時間を取るのとは簡単ではないと思うが、誰かの病欠は日々起きる。そのときは誰かが埋め合わせるので、できないことはない。だからこそ学んだことを生かして業務を改善し、みんなに還元できることが一番良い循環だろう。

― 進める上での困りごと、悩みは。 ―

松浦 会社としてリスキリングに取り組みないと生き残れないことは社員も頭では分かっている。では、自分はそのために何をすればいいのか、それをするとな何がかわるのかといった具体的な落とし込みにはまだ課題がある。例えば、ITパスポートを取っても、それで業務がどう変わるのかまでを、丁寧に説明できていなかったことに反省がある。経営戦略や人事戦略を連動させる取り組み（採用・育成・配置による仕事内容のマッチング向上）に基づいて、この領域を勉強しませんか、といったところまで解きほぐしたい。

そして、この学びの輪をどう社内を広げていくか。取り組んでいる社員の成果発表会を開き、成果を共有できるような場をつくりたい。

矢矧 取り組みが組織に広がっているかというまだまだの状態。1番の目標は学びの大切さを社内にも浸透させること。松浦さんの話にもあったような成果発表会を人事考課にまでつなげ、学びに取り

組んでない社員にも広げたい。― 最後に、リスキリングを推進する担当者の方々にメッセージを。 ―

松浦 何かしなければと焦っている担当者もいるのでは。広島県や自治体などがさまざまな支援を準備しており、まずは情報収集に取り組んでみては。そしてもし良いものがあれば、まずは乗っかってみるのが大切だと思う。一緒に取り組める仲間が社外にも増えることに期待している。

寺島 学びたい気持ちには以前からあったが、何をすれば良いか、どこから手を付ければいいのか分からなかった。今回の広島県の支援をきっかけに、かなり成長できたと思う。もちろん苦労はあるが、こういったチャンスがあれば多くの人にも取り組んでもらいたい。

矢矧 広島県の支援は非常にありがたく、県内企業でもっと輪が広がってほしい。またリスキリングにおいてデジタル領域は特に大事だが、それだけではない。さまざまな分野での学びをさらに広げていきたい。

会社情報

ベンダ工業株式会社

所在地: 呉市苗代町
社員数: 単体140人
(連結1026人)
事業内容: 自動車部品の製造

呉市の本社工場と東広島工場で、自動車などのエンジン始動時に使うリングギア（金属製リング）を製造。同製品で世界シェアトップを誇る。

社会福祉法人正仁会

所在地: 安佐北区落合南町
社員数: 235人
事業内容: 介護事業所の運営

安佐北区の可部や落合地区などで特別養護老人ホーム「なごみの郷」をはじめ、グループホーム、デイサービスなど15事業所を運営する。